

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業  
・国際交流拠点形成事業)

事業名：豪農の館 伊藤家解体新書  
CGで学ぶ、日本建築とその文化

事業者名：財団法人 北方文化博物館  
住所：新潟県新潟市江南区沢海2-15-25  
TEL：025-385-2001  
FAX：025-385-3929  
HPアドレス：<http://hoppou-bunka.com>

連携事業者名：新潟職業能力開発短期大学校 長岡造形大学  
新潟市立金津中学校  
会場：財団法人 北方文化博物館  
事業期間：平成21年8月20日 ～ 平成22年3月15日



## 1. 館の使命と本事業の関係

明治中期に作られた伊藤家の邸宅。日本の伝統文化と暮らしが凝縮された当館は、伊藤家の遺構を現在に伝えることを使命としている。北方文化博物館の一番の展示物は、その建物自体である。

本事業を通して、日本の文化が消えゆく現在に暮らす若者達へ、伊藤家を題材としながら日本の文化を伝えていく。

## 2. 企画内容

### ①事業目的

今は無くなってしまった数多くの日本の文化。その中でも建築に目を向け、その素晴らしい技巧と伝統を現在の若者達へと伝えることが当事業の目的である。

若者に関心をもって事業に取り組んでもらうため、新しい技術の導入を実施してみる。

### ②事業概要

博物館に来ていただいて実物を見てもらうことの他にも、若者が関心を示すようにコンピュータグラフィックスや、QRコードによる解説などの技術を導入する。

今回、長岡造形大学の平山育男教授によって実施された講座の内容は、CGやQRコードに反映され、講座参加者以外でも楽しめるような仕組みとした。

作成されたCGはWINDOWSパソコンであれば、特殊なソフトを導入しなくても体験可能なものとした。

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

##### 【平成 21 年 8 月 22 日（土） 夏休み CG 制作体験】

夏休み期間中に子供を対象に実施。当初、近隣の小学校高学年に向けて募集していたが、結果として別地域の中学生からの応募があった。ホームページでの告知を見たとのことであった。

新潟職業能力開発短期大学校より、制作用パソコンなど機材一式を用意してもらう。

制作する内容は「街」道路を作ったり、建物を作ってそれを配置したりなど。説明を聞きながら、ソフトを動かしていったが、子供達は飲み込みが早く、問題なく作れた。

##### 【平成 21 年 12 月 17 日（木） 日本建築の匠 特別講座】

長岡造形大学造形学部長 平山育男教授による特別講座を実施した。

近年まれに見る大雪の影響で、当日、交通機関が大幅に乱れ一般参加者のキャンセルが相次いだ。しかしそれでも 35 名の参加者がおり実施した。今回は日本建築の伝統を伺い知ることが出来る場所を館内を回りながら、解説していくという講座。クイズ形式となっており、座って話を聞くだけの講座よりも楽しく学べる内容となった。

この講座には、新潟市立金津中学校の中学一年生、二年生も参加。それぞれが総合学習で学ぶ内容を教員と打ち合わせて、講座内容をアレンジしてもらった。クイズ形式での案内は一緒だが、更に体験活動として一年生には匠の技が見れるところをスケッチしてもらい、二年生には京都の庭園のような本館の庭を見て、美しいと思った場所を写真に撮ってもらった。自分達で考える内容を追加することで、講座の内容がより学習できたと考える。

##### 【平成 22 年 2 月 24 日（水） 完成 CG 体験会（中学生対象）】

新潟職業能力開発短期大学校の学生 5 名が制作した CG が完成した。その活動内容の報告と完成 CG のモニタリングを兼ねて、金津中学校の二年生に参加して頂いた。

PC は学校より 4 台を体験用に用意していただいた。班分けをしてもらい、各班の PC で CG で出来上がった北方文化博物館の大広間を体験してもらった。

また、今回、制作に当たった学生より、CG 制作の手順や操作方法などを解説してもらった。

##### 【平成 22 年 3 月 14 日（日） QR コード・CG 体験（一般参加者）】

完成 CG が体験出来る PC を用意して、一般参加者に体験してもらった。CG を動かすことが初めてという年代の方より参加を頂いた。また、携帯電話の機能にある QR コードを利用したクイズにもチャレンジしてもらい、アンケートに答えてもらった。最新機器を美術館・博物館に導入した場合、どのような意見があるかを聞くことが出来た。



## (2) 参加者の数

参加者人数	延べ	191	人
内 訳：一般参加者	57	名	
金津中学校			
一年生	72	名	
二年生	55	名	
教員	7	名	

## (3) 事業により作成した印刷物等

事業報告書 モノクロ 60 ページ  
完成 CG 等収録 CD-ROM

## (4) 実施事業に関する新聞記事等

### ○新聞記事

新潟日報 2009 年 12 月 19 日（土）付朝刊

### ○テレビ、関連誌等

BSN 新潟放送「THE NEWS 新潟」午後 6 時台ニュース内で約 1 分間放送

## 4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

### 事業の成果

新潟職業能力開発短期大学校の学生達の制作機会を用意できたこと。

卒業制作という、とても大事なテーマに北方文化博物館の CG 制作を選んで頂いた。

博物館側も新しい試みに挑戦することが出来たので相乗効果があった。

また、学生の皆様にとっては、中学生に自分達の作品を体験してもらう機会を設けることが出来た。

長岡造形大学の平山教授に講演頂くことで、北方文化博物館の新しい魅力の発見につながった。このような講座に対する要望が多いことが実感でき、今後の館の運営に参考になった。

平山教授が考えて下さったクイズ方式による解説は、当館の職員が見ても楽しく、ガイドの仕方の一つとして参考になった。

事業報告書・完成 CG 収録の CD-ROM、QR コードなどこれからも活用出来るツールを得ることが出来た。

### 参加者の意見

#### 【一般参加者】

- ◆ クイズ形式で理解しやすかった。
- ◆ 平山先生のお話が楽しかった。
- ◆ 名称など知らないことも多かったが、それらを学ぶことが出来た。
- ◆ QR コードはやり方が普段使わないので、やり方が難しい。

- ◆ CGは初体験だったが、楽しめた。
- ◆ CGの中でもクイズが出てきて面白かった。

【中学生】

- ◆ クイズ形式なのが楽しかった。
- ◆ 昔の職人さんの技術力の高さにびっくりした。
- ◆ 日本庭園の美しさに気付いた。
- ◆ 庭の中を歩いてみたいと思った。
- ◆ 日本庭園を見ていると心が落ち着くことが分かった。
- ◆ 修学旅行で京都に行くので、京都の日本庭園を見るのも楽しみになった。
- ◆ CGで出来た北方文化博物館のリアルさに驚いた。
- ◆ CGを作ってみたいと思った。

【教員】

- ◆ 新潟職業能力開発短期大学校 三田先生  
学習の成果が対外的に公開されることは学生にとっても有意義であった。
- ◆ 長岡造形大学 平山教授  
専門的な事柄を楽しく、分かりやすく伝えることの難しさを思い知ることができ、貴重な体験であった。
- ◆ 新潟市立金津中学校 浅井校長先生  
学社連携の素晴らしい事業になる可能性があるので、今後の継続・発展を期待する。